



地震 和気町で想定される地震

地震について学ぼう

岡山県内で被害が想定されている南海トラフ巨大地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、概ね100~150年間隔で繰り返し発生してきた大規模な地震です。その発生確率は、今後10年以内で「30%程度」、30年以内では「70~80%」、40年以内では「90%程度」と予測されています。

和気町内においても、広範囲で甚大な被害が予想されていますので、引き続き十分な警戒が必要です。



2016年（平成28年）熊本地震

2016年（平成28年）4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5（最大震度7）の地震が発生し、その約28時間後の4月16日1時25分、同じ熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3（最大震度7）の地震が発生し、地震活動域は熊本県阿蘇地方や大分県中部にまで拡大しました。最大震度1以上を観測する地震の回数は最初の震度7の地震から5か月後までに4,000回を超えるなど、地震活動は広域で極めて活発となり、熊本県を中心に甚大な被害が生じました。

死者（災害関連死含）	272名
負傷者	2,808名
住家被害 全壊	8,668戸

出典/消防庁応急対策室 平成30年10月15日13:00時点集計



南海トラフ巨大地震による最大の被害想定を知ろう

和気町では大部分が震度5強です！

最大震度 6弱

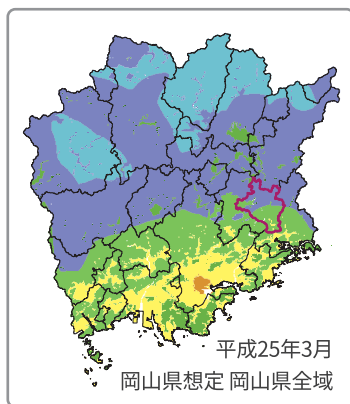
震度は、地震の揺れの大きさを表した指標値

揺れによる建物被害	
全壊	1棟
半壊	114棟
液状化による建物被害	
全壊	5棟
大規模半壊	63棟
半壊	115棟

凡例

震度

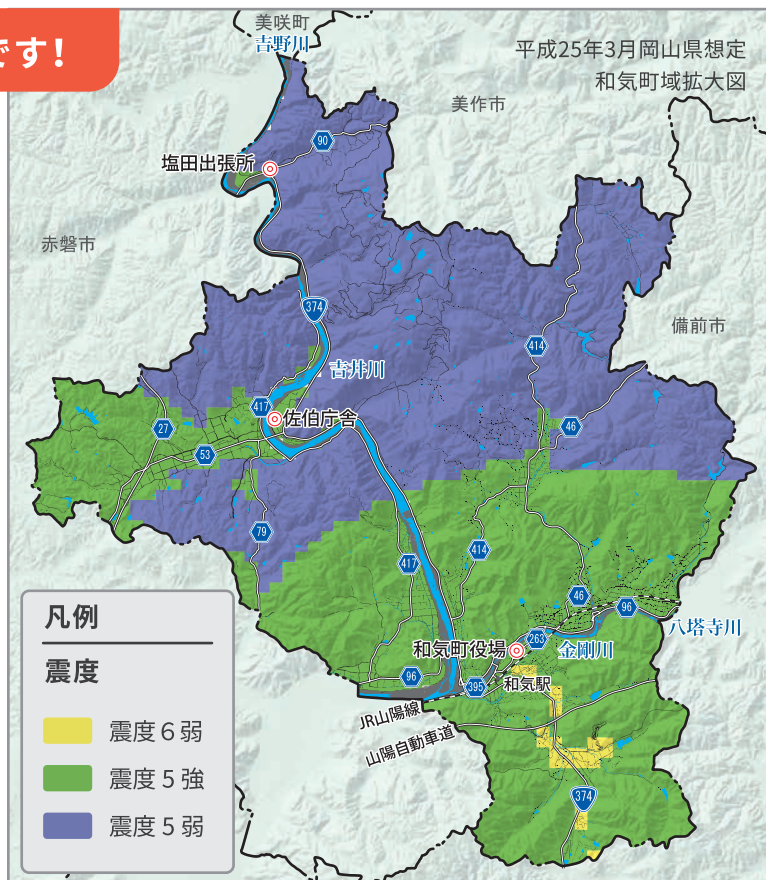
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4



凡例

震度

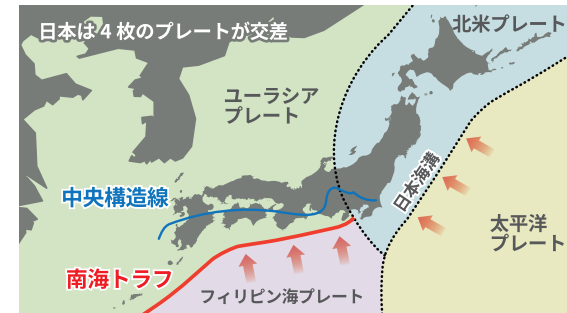
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱



地震大国日本：海溝（プレート境界）型と内陸直下型、2種類の地震

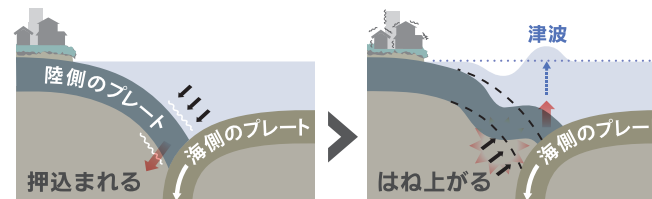
日本列島は、4つのプレートが周囲を取り囲む地震密集地です。日本で地震が多いのは、これらのプレートがぶつかり押し合うことによりエネルギーの破壊が起こるためであり、世界中で発生する地震のおよそ10%が日本列島周辺で発生しています。

日本列島周辺では、阪神・淡路大震災(1995年)以降は「地震の活動期」に入っており、今後は高い確率で発生が予想されている南海トラフ巨大地震(海溝型)とその活動の前後で起こる活断層地震(内陸直下型)への警戒と備えが重要です。



海溝（プレート境界）型地震

関東大震災、十勝沖地震、東日本大震災など



海側プレートが陸側プレートの下に潜り込むことで、境界にひずみエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートが元に戻る力ではね上がり、地震が起こります。(押し込まれるときにも内陸側で地震が起きます)

マグニチュードと震度について

地震を表す「マグニチュード(M)」は、「地震エネルギーの大きさ(規模)」を、「震度」は「地震のゆれの強さ」を示します。

「マグニチュード＝エネルギー」が大きくても、震源が遠い、深い場合は「震度＝ゆれの強さ」が小さくなります。逆に「マグニチュード」が小さくても、震源が近い、浅い場合は「震度」が大きくなります。



液状化危険度分布図

液状化とは、地震のゆれによって砂粒が相互にかみ合っていた状態がはずれ、土が泥水化する現象です。埋立地や河口など水分をたくさん含んだ砂質の地盤で発生する現象で、噴砂や地盤沈下を伴います。

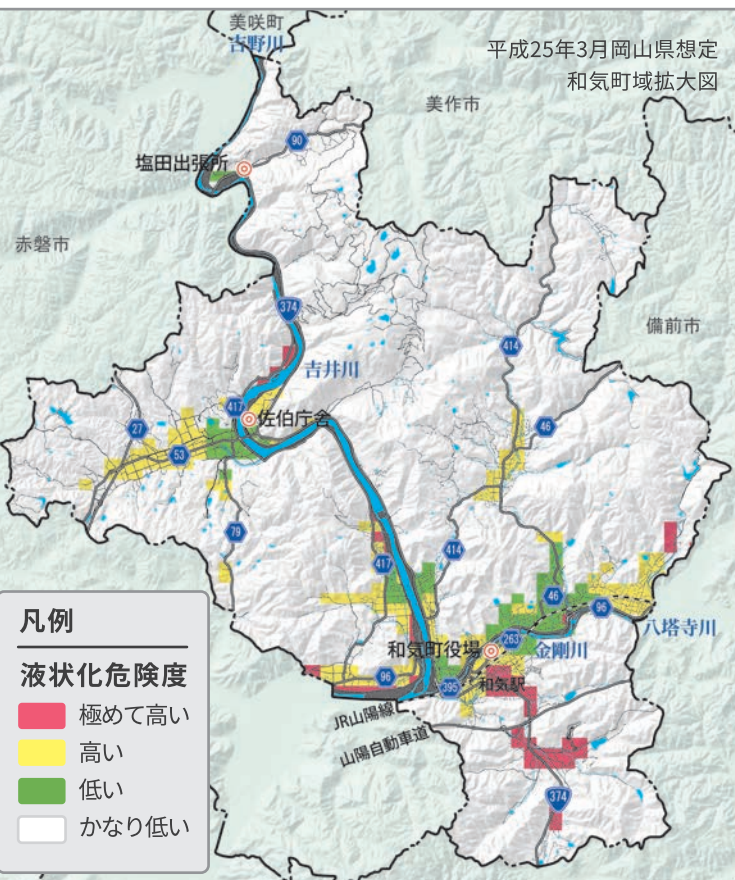
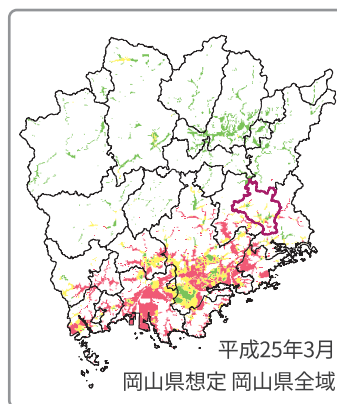
平成23年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)では、震源域から遠く離れた東京湾岸でも広域に発生し、巨大地震では遠方でも発生することが分かっています。液状化危険度の判定には、PL値を用いました。

PL値とは、その地点での液状化の危険度を表す値です。推計は250mメッシュ単位で行いました。

凡例

液状化危険度

- 極めて高い
- 高い
- 低い
- かなり低い



凡例

液状化危険度

- 極めて高い
- 高い
- 低い
- かなり低い